

司法書士試験概要と短期合格のための学習法

第 1 章 司法書士試験の受験科目等

1. 午前の部 憲法(3 問)・民法(20 問)・刑法(3 問)・商法(9 問)
2. 午後の部の択一式試験
民事訴訟法(5 問)・民事執行法(1 問)・民事保全法(1 問)
司法書士法(1 問)・供託法(3 問)・不動産登記法(16 問)・商業登記法(8 問)
3. 午後の部の記述式試験
不動産登記法, 商業登記法各 1 問ずつ

第 2 章 司法書士試験の出願者数及び合格者数

過去 3 年間の出願者数及び合格者数, 合格率

	出願者	合格者数	合格率
平成 20 年度	33,007	931	2.82%
平成 21 年度	32,558	921	2.83%
平成 22 年度	33,166	946	2.85%

第 3 章 配点と合否の判定方法

1. 配点

択一式試験は 1 問 3 点で 210 点満点

記述式試験は 2 問で 70 点満点

合計 280 点満点で採点される

2. 合格基準点

過去 3 年間の合格基準点

	午前の部	午後の部の択一式	記述式	全体の基準点
平成 20 年度	28 問(84 点)	26 問(78 点)	19.5 点	189.5 点
平成 21 年度	29 問(87 点)	25 問(75 点)	41.0 点	221.0 点
平成 22 年度	27 問(81 点)	25 問(75 点)	37.5 点	212.5 点

※ 平成 20 年までは, 記述式は 52 点満点で, 合計 262 点満点で採点していた。

第4章 短期合格の意義等

第5章 試験合格に必要な思考回路

1. 出発点 — 試験には確実に合格したい
2. 合格の条件 — 試験で8割以上の得点をする
3. 得点の条件 — 問われる事項についての知識を準備すること

第6章 短期合格のために心がけるべき事項

1. 受験の動機を明確にすること
2. 嵐のように練習する（最も合格しやすい方法）
3. 過去問学習の重要性を認識する
4. バランスのとれた受験準備をする
5. 基本書等のテキスト類について
6. 六法，過去問集等について
7. 具体的な学習方法，勉強時間など